

2019年6月7日
愛媛大学病院小児科研修プログラム説明会



愛媛大学病院小児科研修プログラム



新専門研修プログラムについて

基幹研修施設が独自の研修プログラムを作成し、その認定を第三者機関が行う。小児科を含む基本19分野で行われる。

愛媛大学病院小児科研修プログラム

基幹研修施設

愛媛大学

同時に別プログラムの連携施設

同時に別プログラムの基幹施設

研修連携施設

県立中央病院

松山日赤病院

市立八幡病院

市立宇和島病院

県立今治病院

県立新居浜病院

研修可能施設(小児科専門医が在籍)

市立八幡浜病院

松山市民病院

西条中央病院

四国中央病院

愛媛医療センター

愛媛療育センター

今治済生会病院

愛媛生協病院

専攻医のローテーション例

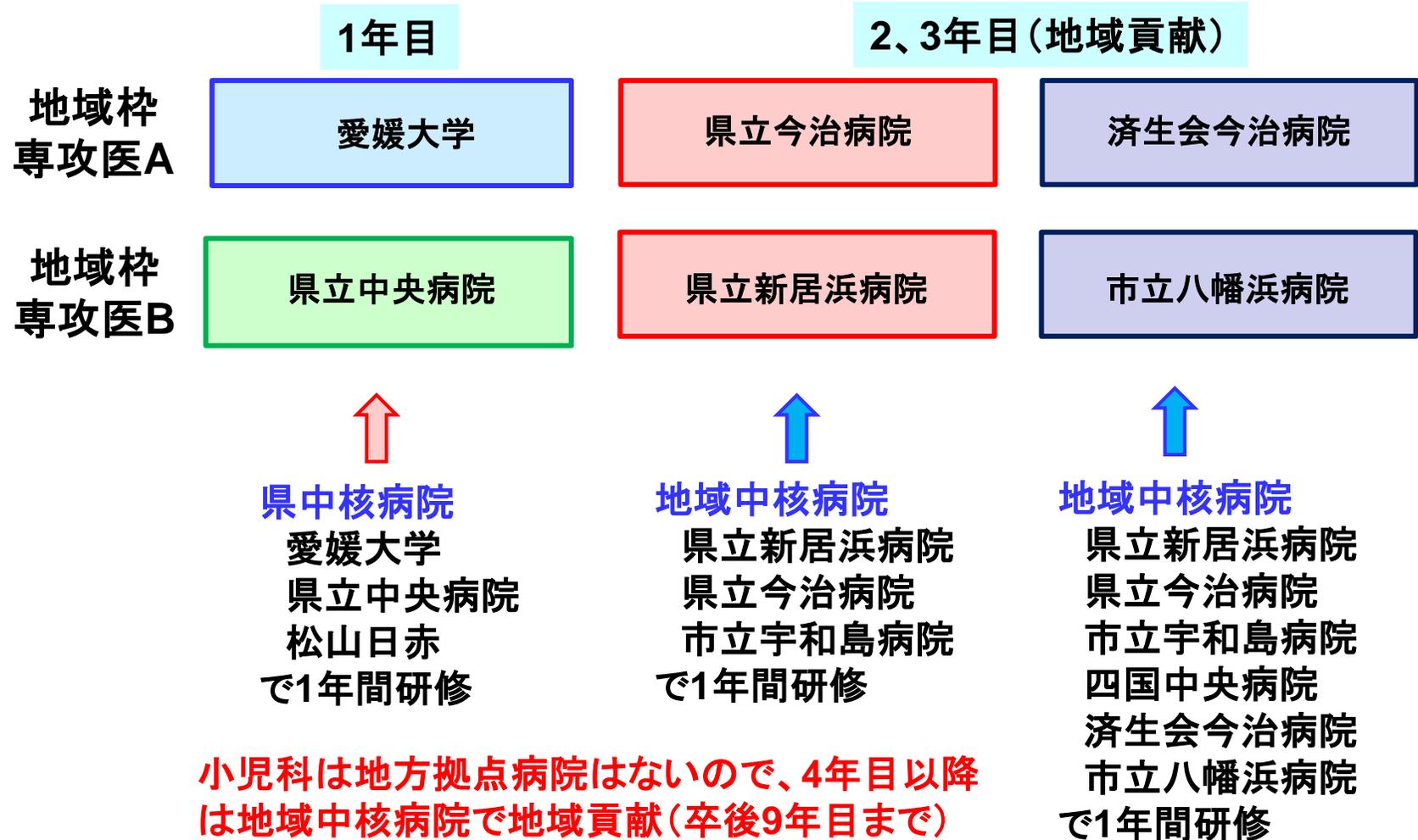
3年の研修期間中に基幹施設、連携施設を中心に回り、小児科の基本分野を習得する(2つ以上の施設で研修すること、地域医療も含むこと)

	1年目	2年目	3年目
専攻医A	愛媛大学	県立中央病院	県立今治病院
専攻医B	県立中央病院	市立八幡病院	愛媛大学
専攻医C	松山赤十字病院	愛媛大学	市立宇和島病院

1. 愛媛大学、県立中央病院、松山日赤、市立八幡病院などの基幹施設、連携施設で1、2年間研修
2. 県立新居浜病院、県立今治病院、市立宇和島病院などの連携施設で地域小児医療を6か月から1年間研修

地域枠専攻医のローテーション

3年の研修期間中に**義務年限に参入可能な施設を回り**、小児科の基本分野を習得する



各病院の特徴と研修可能分野

1つの施設だけでは小児科の基本分野を習得することはできない

専門領域	愛媛大学	県立中央病院	松山赤十字病院	市立宇和島病院	県立今治病院	県立新居浜病院	四国中央病院	西条中央病院	今治済生会病院	愛媛医療センターⅠ	療育センターⅠ	松山市民病院	愛媛生協病院	市立八幡浜病院	南宇和病院
新生児	◎	◎	●	●	●	●	●	●							
先天異常	●														
先天代謝異常、代謝性疾患	●							●							
内分泌	●		●		●			●							
生体防御・免疫	●	●		●				●						●	
膠原病・リウマチ性疾患	●		●										●		
アレルギー	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	
感染症	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●
循環器	◎	●		●	●	●			●			●			
血液	◎	●	●											●	
腫瘍	◎	●	●											●	
腎・泌尿器	●	●	●	●	●	●									
神経・筋	◎	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●			
精神・行動・心身医学	●	●	◎			●	●		●	●	●	●			
救急		◎	◎	●	●	●	●	●				●		●	
地域総合小児医療		◎	◎	◎	◎	◎	●	◎						◎	●

小児科研修プログラムの全スケジュール

月	1年	2年	3年	修了	
4	○				研修開始ガイダンス(専攻医および指導医に各種資料を配布)
		○	○		研修手帳を研修管理委員会に提出し、チェックを受ける
				○	研修手帳・症例レポート等を研修管理委員会に提出し判定を受ける
					<研修管理委員会> ・研修修了予定者の修了判定を行う ・2年次、3年次専攻医の研修の進捗状況の把握 ・次年度の研修プログラム、採用計画などの策定
					<日本小児科学会学術集会>
5				○	専門医認定審査書類を準備する
	○	○	○	○	<愛媛大学病院小児科研修プログラム合同勉強会・歓迎会>
6				○	専門医認定審査書類を専門医機構へ提出
					<日本小児科学会愛媛地方会>
8	○	○	○		<愛媛大学病院小児科研修プログラム合同勉強会>
					<小児科専門医取得のためのインテンシブコース>
9				○	小児科専門医試験
	○	○	○		臨床能力評価(Mini-CEX)を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出

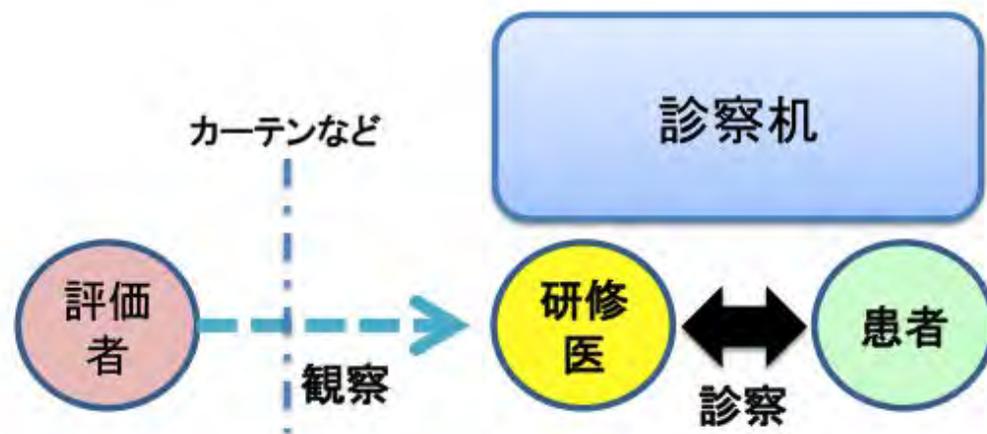
小児科研修プログラムの全スケジュール(続き)

10				<p><研修管理委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の進捗状況の確認 ・次年度採用予定者の書類審査、面接、筆記試験 ・次年度採用者の決定 <p><日本小児科学会中四国地方会></p>
12	○	○	○	<愛媛大学病院小児科研修プログラム合同勉強会・納会>
	○	○	○	<日本小児科学会愛媛地方会>
3	○	○	○	臨床能力評価(Mini-CEX)を1回受ける
	○	○	○	360度評価を1回受ける
	○	○	○	研修手帳の記載、指導医とのふりかえり、研修プログラム評価 専門医更新、指導医認定・更新書類の提出

Mini-CEX (Mini-Clinical Evaluation Exercise) とは

診察場面を観察し、具体的、客観的に評価する評価表

- ・10分の観察、5分のフィードバックで可能
- ・終了後に研修医が自分への評価として保存できる
- ・米国内科学会が開発し、欧米を中心に使用されている



小児科学会では年2回、3年間で6回行うことを目安にしている

360度評価とは

臨床現場で専攻医とともに診療を携わっている複数かつ多職種による評価

手順

- ・評価者を選ぶ(複数が望ましい)
- ・評価者に360度評価の目的、方法を理解してもらう
- ・評価表を配布して評価してもらう(年1回)
- ・研修管理委員会が回収して分析し、専攻医の評価・フィードバックに用いる(総合評価の参考とする)

新しい専門医試験

- ・査読がある雑誌への論文掲載が必要となった
- ・総合小児医療分野20問（一般問題15問、症例問題5問）

が

増問

- ・受験者数は444名と例年の半分（H29）
- ・出願書類の不備で受験不可となった事例が19件（H29）

2020年度の専攻医申請スケジュール

- ・研修プログラムの公表(8月ごろ)

日本専門医機構、各領域学会、基幹施設のHPにプログラムを公開

- ・専攻医の一次募集(10月中旬)

応募状況は締め切り期日まで時々刻々HP上で確認可能

- ・専攻医の一次採用試験(10月中旬～11月中旬)

- ・専攻医の一次募集の採用決定と通知(11月末)

全ての専攻医希望者は一次募集で19分野のどこかのプログラムに応募しなければならない！

- ・専攻医の二次募集(12月中旬～1月中旬)

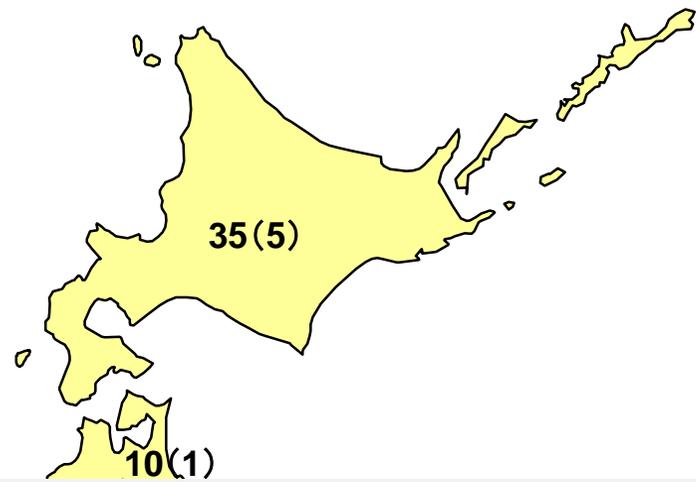
小児科専門医研修登録申請者数

	2015	2016	2017	2018			
				合計	1次	2次	3次
全体	570	524	542	562	526	30	6
5大都市	299	268	262	259	254	5	0
東京	124	114	121	130	130	0	0
5大都市 以外	271	256	280	303	272	25	6

新研修プログラム

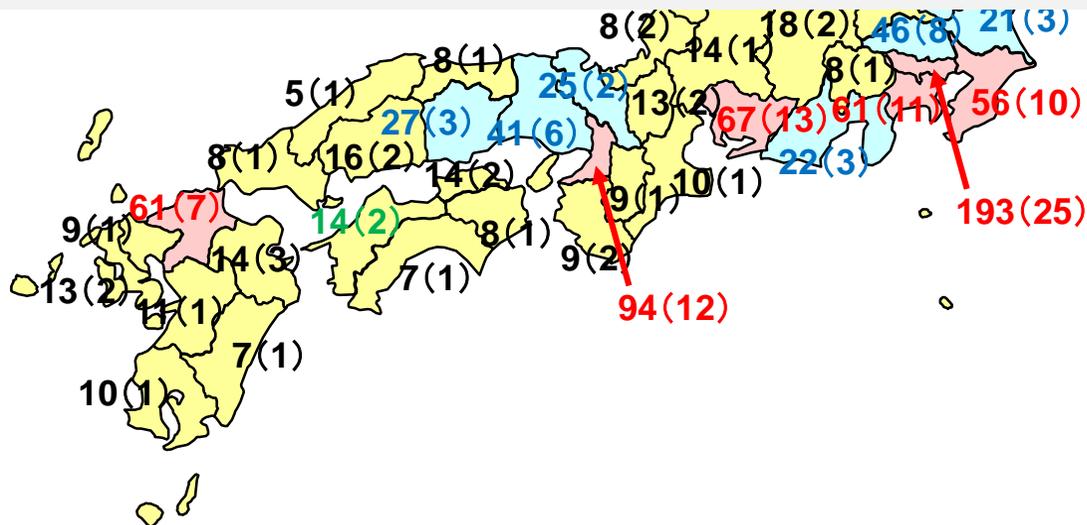
基幹施設数: **159施設**

専攻医募集数: **1、140名**



H30年度は5大都市部を含めて900名程度に減らすように勧告(シーリング)
(5大都市部:東京、神奈川、大阪、愛知、福岡)

さらに1地域に2つ以上のプログラムが
望ましいとの指導あり



四国の小児科プログラムへの応募状況

2017年度

愛媛	4	香川	3
徳島	2	高知	1

2018年度

愛媛	5	香川	3
徳島	0	高知	1

2019年度(1次募集のみ)

愛媛	3	香川	4	(四国こどもとおとな	3)
徳島	2	高知	0		

中四国地区は

- ・充足率が他の地区に比べて非常に低い
- ・大学以外のプログラムにはほとんど応募がない

専門医所得後の小児科研修の流れ

臨床医を目指すコース

引き続き大学で臨床

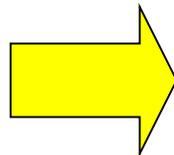
サブスペシャリティ
ティー専門医

国内の病院で臨床

国内留学

専門医
取得

基幹病院、連携病院で研修



随時可能

研究、教育を目指すコース

大学院

学位

海外留学

国内留学

サブスペシャリティ専門医取得、学位取得、留学
は目標として持ってほしい

愛媛大学小児科の体制と専門分野(2019年前期)

小児科の組織は多くの分野で構成されている

小児科学

医学系研究科 小児科学

江口(教授、血液腫瘍・遺伝)
高田(准教授、循環器)
奥(助教、循環器・新生児)
伊藤(大学院、循環器・新生児)
岡本(大学院、アレルギー)
楠目(研究員、アレルギー)

附属病院 小児科

永井(講師、血液腫瘍)
森谷京(助教、血液腫瘍)
宮脇(助教、血液腫瘍)
今井(新生児)
水本(神経)
加賀田(アレルギー)
杉(専攻医)
井門(専攻医)
友松(専攻医)
久保(専攻医)
中野(大学院、免疫・膠原病)
城賀本(大学院、神経)
手束(大学院、血液腫瘍)

周産母子 センター (新生児部門)

石前(准教授、血液腫瘍・遺伝)
越智(講師、感染免疫)
濱田(講師、代謝・内分泌)
岩田(新生児)

小児総合医療 センター

森谷友(講師、循環器・新生児)
元木(大学院、神経)

感染制御部

田内(准教授、血液腫瘍・感染)

地域救急 医療学

地域医療 再生学

地域小児・ 周産期学

地域小児 保健医療学

大久保(講師、代謝・内分泌) 日野(講師、神経)

檜垣(教授、循環器・新生児)
宮田(助教、循環器・新生児)

太田(准教授、循環器・新生児)
千阪(講師、循環器・新生児)

小児科医の育成プラン

各診療分野の専門医の育成

小児科医

①まず、小児科の柱となる4つの分野を習熟する

新生児医療

感染症学

救急医学

小児保健

②小児科の各分野の基礎を学び、臨床力を高める

新生児

免疫・感染
アレルギー

血液・
腫瘍

循環器

神経・
筋

内分泌・
代謝

腎臓

③各分野の専門医・指導医

大学・中核病院

④地域医療に貢献

中核病院・関連病院

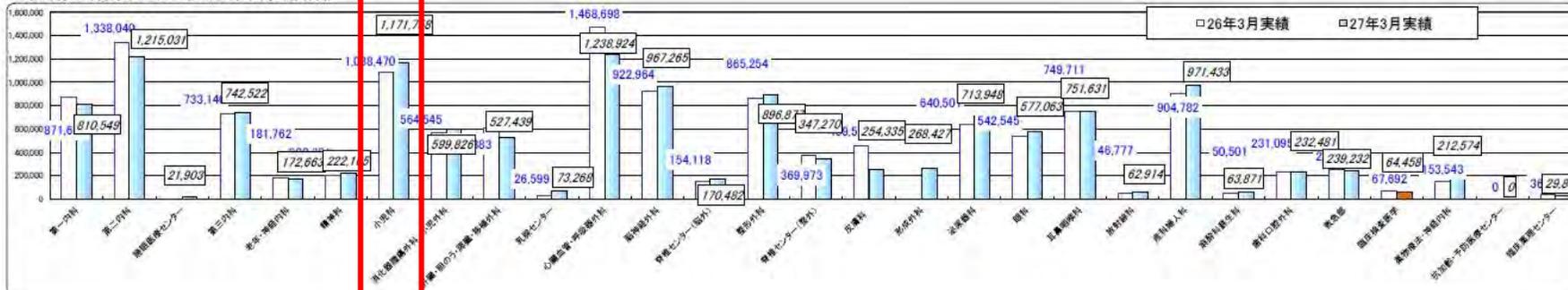


小児科の診療実績(愛媛大学)

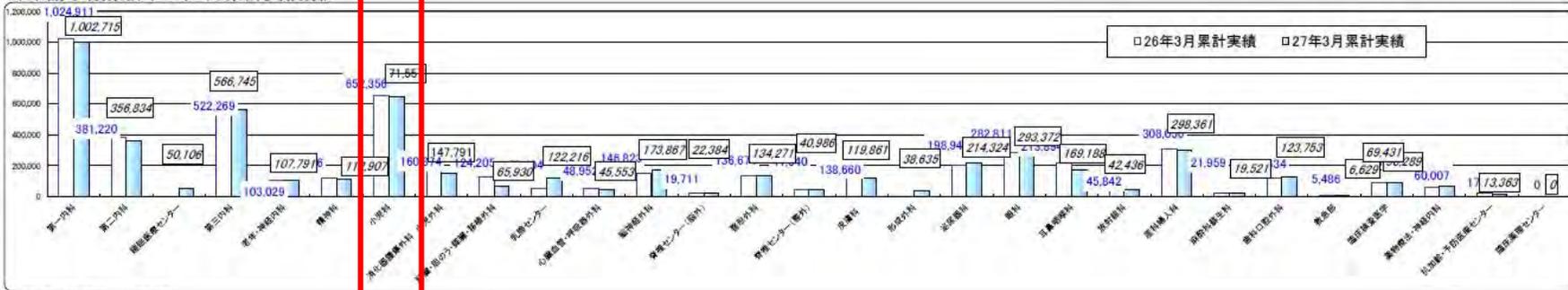
小児科診療は大学病院の収益に貢献している

小児科の収入 = 18.5億/年 病院全体の収入の約 10%

入院請求額累計(27年3月累計実績額)



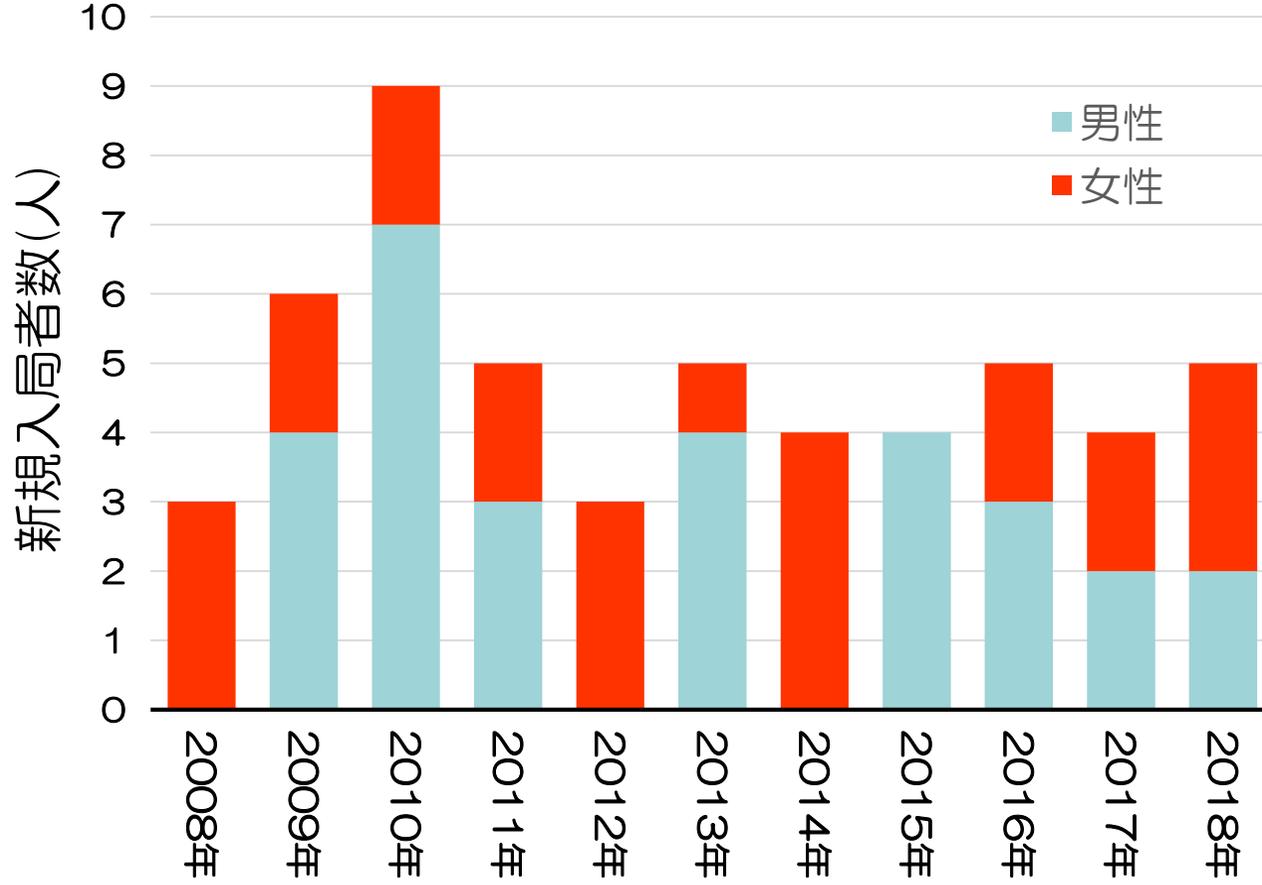
外来請求額累計(27年3月累計実績額)



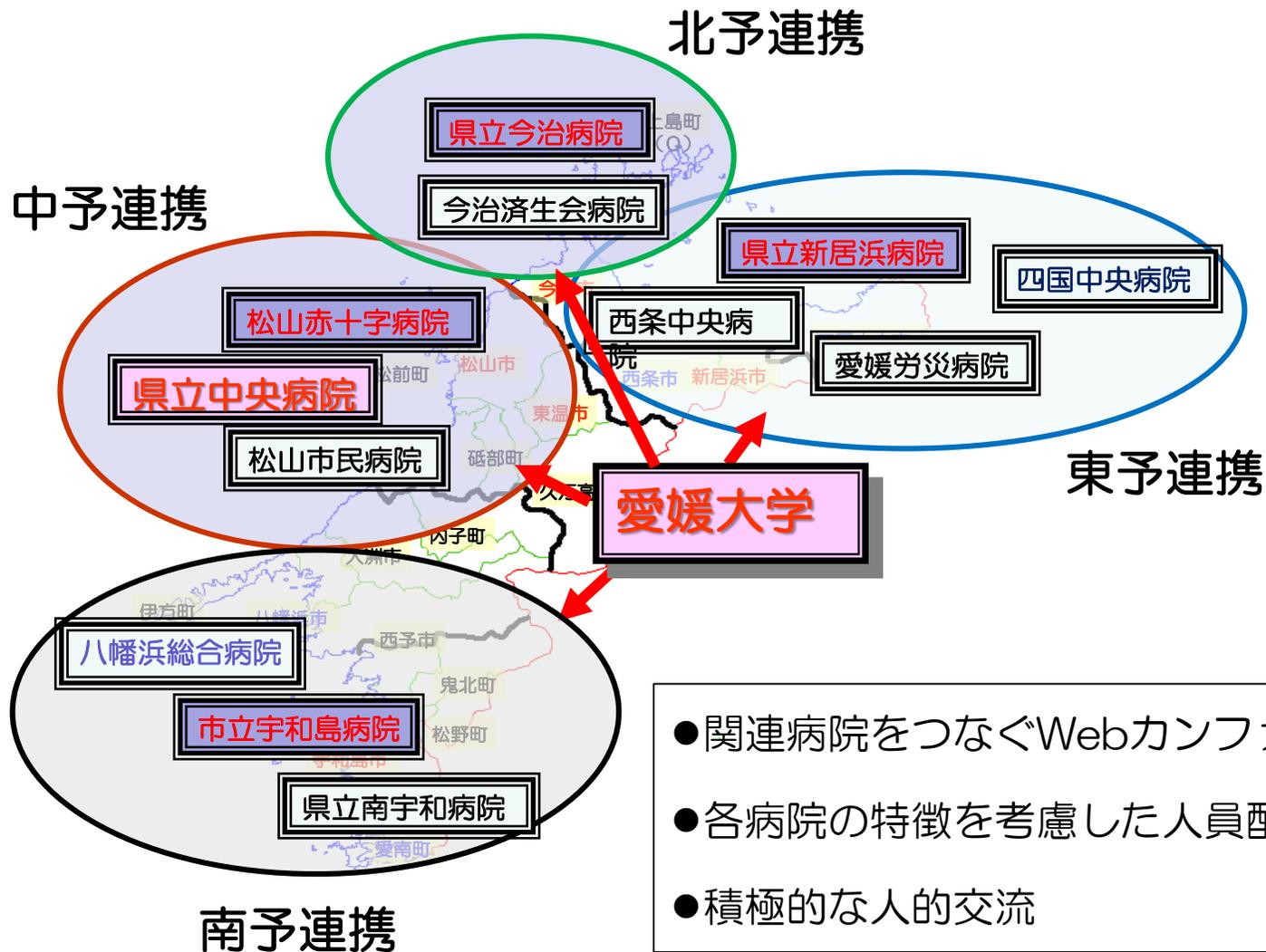
各講座のインセンティブ(収益に応じた講座への還元費)

→H28 年以降は1位!

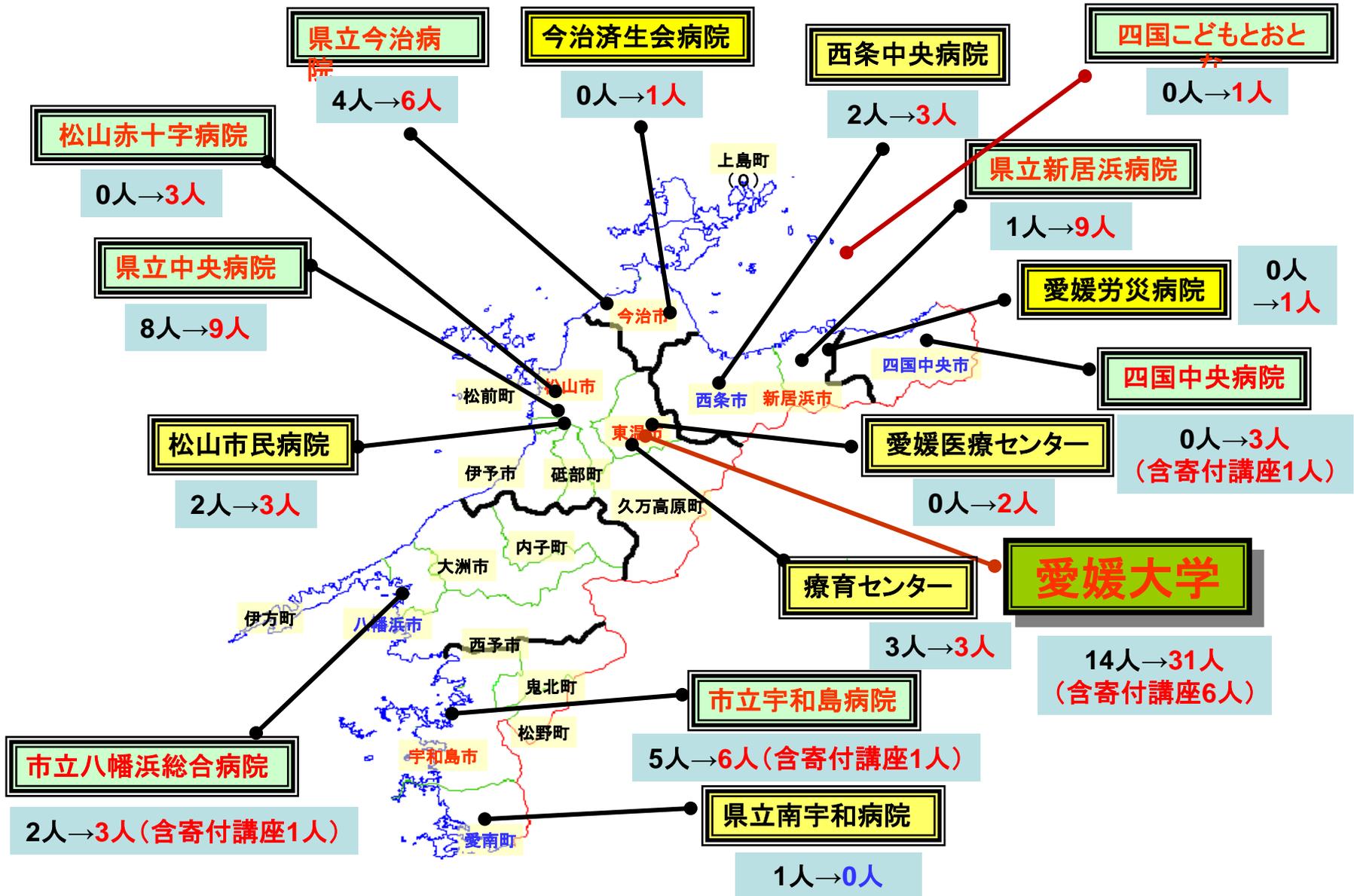
愛媛大学小児科 入局者数の推移 (2018～)



愛媛県の小児医療の連携



愛媛大学小児科の関連病院の人員推移(平成19年～令和元年)



国内の研修可能な病院、施設

臨床研修

- ・鹿児島市立病院小児科
 - ・福岡市立こども病院
 - ・市立八幡病院
 - ・広島大学
- ・九州がんセンター小児科
- ・国立病院機構三重病院
- ・愛知こども医療センター
など

国内留学(臨床、研究)

- ・国立精神神経センター(神経)
- ・国立がんセンター(血液、腫瘍)
- ・東京医科歯科大学(免疫、再生)
 - ・横浜市立大学(膠原病)
 - ・東京女子医大(神経)
 - ・京都大学(再生医療)
- ・国立成育医療センター(成育)
- ・福岡市立こども病院(新生児、腎)
- ・福岡病院(アレルギー)
など

上記は、現在研修中の医局員がいる、あるいはこれまでに実績のある病院、施設です。

その他希望があればすべての施設で交渉はいつでも行います。

海外留学について

海外留学の薦め

海外の施設で研究、臨床を行うことにより、医師としての教養を深め人間性を磨くことができる→留学は一生の宝物になる

留学実績(北米が中心)

- ・Toronto 小児病院(カナダ、オンタリオ)
- ・Johns Hopkins 大学(米国、メリーランド)
- ・St. Jude 小児病院(米国、メンフィス)
- ・ミシガン小児病院(米国、デトロイト)
- ・ロチェスター大学(米国、ニューヨーク)
 - ・Mayo Clinic(米国、ミネソタ)
- ・Vanderbilt 大学(米国、ナッシュビル)
- ・カリフォルニア大学リバーサイド校(米国、カリフォルニア)
- ・コロンビア大学(米国、ニューヨーク)

上記は愛媛大学小児科から留学実績のある施設です。
その他希望があれば交渉はいつでも行います。

愛媛大学小児科の研究(令和元年度)

1. 血液腫瘍

小児白血病の病態解析

江口、石前、永井、森谷京

小児がんの病態解析

手束(大学院)

生化学(東山教授)

2. 感染症

新生児腸内細菌叢の解析

田内、山内、越智

ヤクルト株式会社

3. 循環器

先天性心疾患の生理機能

高田、檜垣、宮田、森谷友

先天性心疾患の遺伝病態

伊藤(大学院)、江口、石前

4. 神経

自閉症の病態解析

城賀本(大学院)

筋ジストロフィーの腎機能評価

元木(大学院)

神経筋疾患の遺伝子解析

相原(大学院)

生理学(田中教授)

精神神経センター

東京女子医大

5. 免疫膠原病

自己炎症性疾患の病態解析

中野(大学院)

病理学(増本教授)

6. 内分泌

糖尿病の病態解析

濱田

糖尿病内科学

7. アレルギー

アレルギー疾患の解析

桑原(大学院)

アレルギーの病態解析

岡本(大学院)

国立三重病院

免疫学(山下教授)

8. 腎

IgA 腎症の発症機序の解析

手塚(大学院)

医局員の親睦はレクリエーションで！

医局旅行：2019年は横浜・箱根（6月30日、7月1日）

2017年：阿蘇・九重



2013年：城崎

その他のレクリエーション

野球（医局対抗）、ゴルフ（年2回）、など



愛媛大学小児科の今後の活動方針

1. 連携による小児医療強化

中四国の大学、病院との連携
学外施設との人的交流

2. 高度医療の充実

血液腫瘍、未熟児・循環器医療、など

3. 小児医学の研究強化

すべての領域で臨床に関連した研究の構築
大学院教育の強化と学位取得の推進

4. 留学の奨励

国内、海外留学

5. 小児科医の確保

臨床実習、専門医教育の充実
勤務医・開業医の先生方との連携

6. 魅力ある医局作り

明るく楽しく仕事をできる環境作り

ご清聴ありがとうございました

